

佐賀県研究成果情報（平成 25 年 3 月作成）

黄色系キウイフルーツ「ホート 16A」の環状はく皮処理による果実肥大促進効果					
[要約] 黄色系キウイフルーツ「ホート 16A」に対する果実肥大促進を目的とした環状はく皮処理は、満開 10～45 日後に行えば果実肥大効果があり、処理が早い程重くなる。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	キウイフルーツ

[背景・ねらい]

キウイフルーツの環状はく皮技術は「ヘイワード」において、花腐れ細菌病対策および果実肥大促進対策として行われてきた。しかし、近年県内で導入が進んでいる「ホート 16A」に対する環状はく皮の果実肥大効果は確認されていない。そこで、「ホート 16A」における環状はく皮処理が果実肥大に及ぼす影響について検討を行った。

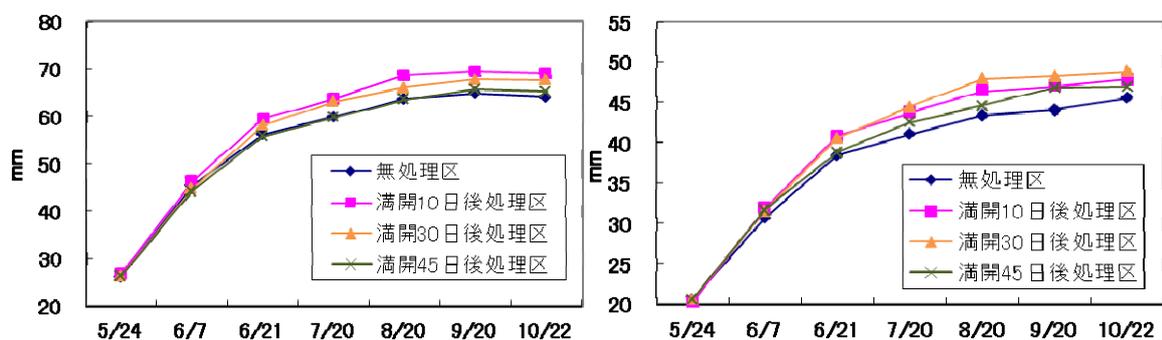
[成果の内容・特徴]

1. 満開 10 日後および 30 日後処理区は無処理区より、処理約 2 週間後から縦径、横径で果実肥大が進む。満開 45 日後処理区は無処理区より、処理約 2 週間後から横径で果実肥大が進む（図 1）。
2. 収穫時の果実縦径は、満開 10 日後処理区が最も長く、次いで 30 日後処理区、45 日後処理区で、無処理区が最も短い（表 1）。
3. 収穫時の果実横径は、満開 30 日後処理区が最も長く、次いで 45 日後処理区、10 日後処理区で、無処理区が最も短い（表 1）。
4. 収穫時の果実重は、満開 10 日後処理区が最も重く、次いで 30 日後処理区、45 日後処理区で、無処理区が最も軽い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本調査は 2010 年に佐賀県巖木町で行い、満開日は 5 月 7 日である。満開 10 日後処理は 5 月 17 日、30 日後処理は 6 月 6 日、45 日後処理は 6 月 21 日に行った。
2. 環状はく皮は、環状はく皮器具「グリーンカット 10」を用いて、側枝に対し主枝から約 30cm の位置に幅 10mm で行う（図 2）。
3. 結果部 1 カ所に対し 3 果程度になるよう、摘果を行う。

[具体的データ]



※左：縦径、右：横径

図1 黄色系キウイフルーツ「ホート 16A」の環状はく皮処理後の果実肥大の推移

表1 黄色系キウイフルーツ「ホート 16A」における環状はく皮処理が
収穫時果実の大きさ及び果重に与える影響

	縦径(mm)	横径 ^{y)} (mm)	重さ(g)
無処理区	61.1c ^{z)}	43.7c	69.7b
満開10日後処理区	68.1a	47.3b	98.5a
満開30日後処理区	67.6ab	49.6a	93.1a
満開45日後処理区	64.5b	47.5b	92.4a

z) 同一列内の異なるアルファベットは Tukey-Kramer の HSD 検定 5%水準で有意差有り

y) 横径は長横径を測定



図2 環状はく皮処理状況

[その他]

研究課題名：キウイフルーツの環状はく皮処理時期の検討

研究期間：2010年

研究担当者：児玉龍彦、加藤恵、稲富和弘